

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式					
M3140207		腫瘍血液内科学Ⅰ (Oncology and Hematology Ⅰ)					生命健康科学コース専門分野							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
必修	2	2	医学部先進医療科学科	後期	月3	日本語		オムニバス						
担当教員	氏名 緒方 正男、高野久仁子、大津智 E-mail mogata@oita-u.ac.jp 内線 6275													
授業の概要	血液疾患と固形腫瘍に関し、主に診断に関わる検査について学修する。 血液疾患については末梢血像と骨髄像の形態学的診断、遺伝子診断(染色体検査、FISH法、PCR検査)とその解釈について概説する。固形癌においては発症に関する遺伝子異常と遺伝子パネル検査によるその解析について学び、治療薬選択における遺伝子検査の役割について理解を深める。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1 赤血球、白血球系、血小板の形態学的特徴と機能を説明できる。								○			○	○	○	
目標2 止血、凝固、線溶の機序を説明できる。								○			○	○	○	
目標3 がんの遺伝子異常と遺伝子診断について述べることができる。								○			○	○	○	
目標4 結果の解析と評価ができる								○			○	○	○	
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)								7			1	1	1	
授業の内容														
1 血液の成分と機能														
2 血球の産生と崩壊														
3 血栓・止血機構														
4 血球算定に関する検査(血液疾患と血液検査)※検査部														
5 血液細胞形態検査と細胞表面マーカー検査 ※検査部														
6 血管機能及び血小板機能検査 ※検査部														
7 血栓・止血・凝固能検査 ※検査部														
8 赤血球系疾患の検査														
9 白血球系疾患の検査														
10 血栓・止血異常疾患の検査														
11 がんの発生機序と関連検査														
12 造血器腫瘍・固形腫瘍の検査														
13 血液疾患と遺伝子・染色体異常(血液疾患と遺伝子・染色体検査)														
14 固形癌発症に関する遺伝子異常と遺伝子パネル検査														
15 遺伝子診断(染色体検査、FISH法、PCR検査)とその解釈														
ラーニング	A:知識の定着・確認		○		A:小テストによる自己評価			工夫その他の						
	B:意見の表現・交換		○		B:レポート提出									
	C:応用志向		○		C:症例検討									
	D:知識の活用・創造													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		配布資料の情報を予習する(30h)。											
	事後学修		小テストや配布資料を用いて復習する(30h)。											
	想定時間合計		90											
教科書		教科書は指定しない。授業中に配布するプリントを使用する。												
参考書		「病気がみえる vol. 5: 血液」医療情報科学研究所 2017年、ISBN-13: 978-4896326529 「がんがみえる」医療情報科学研究所 2022年、ISBN-13 978-4896328608 「標準臨床検査学、血液検査学」医学書院、2012年、ISBN- 978-4-260-01509-7												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト		10%	○	○	○	○						
	課題レポート		10%	○	○	○	○						
	定期試験		80%	○	○	○	○						
注意事項													
備考													
リンク													
	URL												
担当教員の 実務経験の有無	○												
教員の 実務経験	附属病院の医師												
実務経験を いかに教 育内容	臨床検査結果の臨床現場における活用状況を講義するとともに、最新の癌治療における遺伝子検査の意義について臨床経験に基づいて概説する。												